

2025年1月20日

採点規則 2025年版
女子体操競技情報 1号

(公財)日本体操協会
ロサンゼルスオリンピック強化委員会
女子体操競技強化本部
審判委員会体操競技女子審判本部

日本体操協会では、ロサンゼルスオリンピック強化委員会体操競技女子強化本部による2025年強化指針と審判委員会体操競技女子審判本部による2025年採点指針をここに通達し、この通達をもって適用いたします。

2025年 強化指針

ロサンゼルスオリンピック強化委員会
女子体操競技強化本部
村上 茉愛

はじめに

新体制が2028年ロス五輪に向けてスタートしました。日本体操女子チームは、国際大会やオリンピックでの経験を活かした技術面・メンタル面の両面での積極的なサポートが必要であると思います。特に、国際大会のプレッシャーに打ち勝つには精神面の強化が不可欠であると感じており、自身の成功や失敗から得た教訓を共有しながら選手たちをサポートしていきます。

チーム全体が一体となり、表彰台に登ってメダルを獲得し、選手たちの体操人生を最高に輝かせたい、そんな熱い思いを抱いて取り組んで参りたいと思います。

<ナショナル強化> 目標:2028年ロス五輪 団体総合銅メダル

2024年パリ五輪では団体予選5位、団体決勝8位、個人総合岸選手11位、中村選手15位、種目別ゆか岸選手7位、という結果を残しました。目標としていた団体でのメダル獲得には届かなかったものの、団体予選ではミスなく12演技を成功させ、チームとしての一体感のある素晴らしい試合を見せてくれたと思います。

一方で、今回のパリ五輪を経て、多くの課題があると再認識しております。体操女子がオリンピックでメダルを獲得するためには、技術力、安定性、メンタル、フィジカルの総合的な向上が必要です。また、強力なコーチング体制と国際的な経験、戦略的な演技構成も非常に大切になってきます。これらすべての要素が揃い、さらに支援体制がより充実すれば、メダル獲得の可能性は大いに高まると考えます。

団体総合でのメダル獲得に向けては、チーム得点165.000以上の獲得は必須です。パリオリンピックでは団体3位(ブラジル)は164.49でした。日本はミスがなかった予選(5位通過)でも162.196と、目標とする点数までは全体で3.00以上チーム得点を上げなければいけません。この得点に関しては毎年のように目指しているものではありませんが、なかなか達成することができません。これを達成するために日本全体としてDスコアの向上が必須であり、特に段違い平行棒・ゆかに求められます。したがって今後は、目標点数を超えるためにDスコア向上を中心とした強化に取り組んで参りたいと思います。

個人総合でのメダル獲得に向けては、最低限56.00を超えることが求められます。そのためには、4種目のDスコアの合計が23.00以上を目指していかなければなりません。2022年~2024年では、個人総合でメダル獲得している選手たちのDスコアは22.50~23.00、またはそれ以上獲得しています。現状、日本全体の平均は21.50~22.00であることから、まずは1.00~1.50程度のDスコア向上を目指していきたいと思います。

	VT	UB	BB	FX	合計
D スコア	5.00	6.00	6.00	6.00	23.00
E スコア	9.00	8.00	8.00	8.00	33.00
					56.00

種目別でのメダル獲得に向けては、近年、平均台などでメダル獲得ができてきているため、更なる挑戦として、継続してメダル獲得できるような強化をしていきたいと思えます。

2028 年ロス五輪では、団体でのメダル獲得を最優先での目標とし、上記の目標を達成するために、計画的かつ継続的に強化合宿を実施して、日本全体で力を合わせて強化に取り組んで参りたいと思えます。

<跳馬>

D スコア 5.00 以上。ただし、世界的に 5.00 は主流となってきたため、積極的に D スコア 5.40 以上の技に取り組んでいきたいと思えます。高い D スコアの跳躍技を推奨しつつも、E スコア 9.00 を超える実施につながる美しい姿勢と正確で雄大な跳躍を実現し、14.000 を超える得点を目指します。具体的には、「高難度の跳躍を習得する為の第一空中局面と着手の改善強化(助走、ロイター板での踏切姿勢、ユルチェンコ、ツカハラ、前転とびの入り練習)と、高さのある跳躍の実施(E スコアの向上)、着地を止める強化」に取り組みます。

<段違い平行棒>

D スコア 6.00 以上。段違い平行棒では D スコアの向上が強く求められます。特に、背面とび出し系や背面とび越し(トカチュフ)～低棒へ移動をする空中局面を伴う技など、移動技との組み合わせを多く構成に取り入れていく挑戦をしていきたいと思えます。そして、高難度の技の習得と並行して、振り上げ倒立の角度修正、空中姿勢が美しく減点の少ない実施など正確で安定感ある実施を目指す強化に取り組みます。

<平均台>

D スコア 6.00 以上。引き続きアクロバット系の正確な技術の習得や組み合わせ技を多く構成に取り入れていく挑戦、ダンス系のジャンプの高さ向上と姿勢の改善に取り組み、14.300 以上の得点が獲得できるような実施を目指し、メダル獲得を目標としていきます。具体的には、アクロバットの技術改善(後転とび、側方宙返り、前方開脚伸身宙返りなど組み合わせに活用できる技の技術改善)、D 難度以上の終末技の習得、ジャンプや輪とびで減点のない美しく正確な姿勢の強化に取り組みます。

<ゆか>

D スコア 6.00 以上。ゆかに関しても D スコアの向上が強く求められます。これまでと同様にビッグタンブリング、D 難度以上のダンス系の技の習得などに取り組んでいきたいと思えます。具体的には強化合宿や所属での練習において、2 回宙返り系の技の高さ、頭の位置が高く綺麗な着地ができるための技術改善を行い、さらに積極的にコレオトレーニングを取り入れ、豊かな表現力を身につけ、E スコアは 8.00～8.30 超えを目指して強化に取り組んでいきたいと思えます。

<ジュニアナショナル 2028年ロス五輪・2032年ブリスベン五輪強化>

2025年ジュニア強化指針としては、これまでと同様の強化を継続して行い、世界で戦い続ける選手になるように「D スコア向上の為に徹底した基本技術の習得」を一番の目標におきます。基本に忠実で正確な技術からなる「美しい体操」と「質の高い技の実施」を目指し、世界でメダルを獲得できる選手となるよう、強化をしていきます。

世界ジュニアでは団体総合2連覇、個人総合2連覇、種目別においてもいずれかの種目において金メダルを目指します。また、ユースオリンピックやアジアジュニアでもメダル獲得といった確実な結果を残していけるような強化を行います。

そして2028年ロス五輪では、団体総合メダル獲得、個人総合、種目別のいずれかにおいて、1つ以上のメダル獲得することを目標とし、この目標を達成するために強化合宿等では、以下のような課題に各種目で計画的かつ継続的に取り組んでいきます。

<跳馬>

ジュニア選手の年齢や発育・発達に配慮しながら以下の強化を行い、将来、世界でメダルを獲得するために必要となる基本技術の習得に取り組めます。

- ① 5.00以上の跳躍習得に向けた第一空中局面と着手のトレーニング(前方系・側方系・後方系)(助走、踏み切り姿勢改善、ロンダートの基礎練習、マット積み込み練習)
- ② 第二空中局面での身体操作能力向上を目的とした感覚練習

<段違い平行棒>

ジュニア選手の年齢や発育・発達に配慮しながら以下の強化を行い、将来、高難度の演技構成につながるために必要となる基本技術の習得に取り組めます。

- ① バーのしなりを活用した質の高い運動を習得できるような段階的な基本要素の練習
- ② 背面とび出し系や背面とび越し(トカチュフ)系などを習得するための、基礎技術練習やトレーニング(支持回転系の技や倒立回転系の技の円運動を活用した基礎練習)

<平均台>

ジュニア選手の年齢や発育・発達に配慮しながら以下の身体的強化と技術習得の強化を進めます。

- ① 高いトウ立ちを基本とした美しい姿勢、十分な高さの開脚度のあるジャンプの強化
- ② 高難度の技や組み合わせ技の習得のためにフロア上で技練習や基礎トレーニング
- ③ 終末技D難度以上を習得するための基礎技術練習

<ゆか>

ジュニア選手の年齢や発育・発達に配慮しながら以下の強化を行い、将来、高難度の演技構成につながるために必要となる基本技術の習得に取り組めます。

- ① ビッグタンブリングを実施するために必要となる強い身体を作るトレーニング
- ② 神経系トレーニング(空中感覚強化)
- ③ 表現力(コレオグラフ)、質の高いダンス系要素の練習

2025年採点指針

審判委員会体操競技女子審判本部

2024年パリオリンピックでは、日本女子チームは持てる力を十分発揮し、予選を5位で突破、団体決勝で第8位入賞という結果を残しました。長年の目標であったメダル獲得には及びませんでした。一昨年、力が拮抗している中でオリンピックの団体出場権を獲得し、パリオリンピックではミスを最小限に抑えた素晴らしい競技で、2008年北京オリンピックから5大会連続での8位入賞をしたことは称賛に値すると言っていいでしょう。また、日本女子選手の演技は入賞という結果だけでなく、国際的に高く評価を受けています。表彰を受けたり、数字として表に出る評価ではありませんが、日本女子選手の姿勢や正確な技の実施は海外の審判員から称賛され、多くの場面で手本となる姿勢、実施として取り上げられています。これは長年、欠点のない美しい姿勢での演技、正確な技の実施を目標に選手、指導者の皆さんが地道なトレーニングを続けてきたことや、各競技会において審判員の皆さんが高い目標を掲げ採点業務をしてきてくれた成果であり、それが着実に結果として実を結んでいると言えます。日本女子の最大の目標はオリンピックでの団体のメダル獲得です。この目標を達成するためには当然高いDスコアの演技構成が必須になってきますが、ただ闇雲にDスコアを上げていくことを目指すだけでは成し遂げられるものではありません。これまで続けてきた方針をそのまま踏襲し、選手、指導者の皆さんと審判員が一体となり、同じ目標のもと根気強く長期を見据えて取り組んでいくことが大切です。国内すべての競技会ではこれまでの指針を継続させ、美しい姿勢での演技を採点上の最重要項目とします。高いDスコアを狙っている演技に対しても各技の姿勢欠点はもちろん演技全体を通した身体の姿勢や足先の美しさに欠ける演技は厳密に減点し、美しい姿勢での演技との差を明確化することといたします。

2025年の国内競技会では以下の3項目を採点上の最重要項目として採点をします。

ただし、15歳以下の選手を対象とする競技会は、後述「15歳以下の選手強化に向けた指針」を適用します。

- ① 身体の細部までコントロールされた常に美しい姿勢での演技
- ② 欠点のない正確な技の実施
- ③ 着地の先取りができた高い体勢での着地

各種目について

<跳馬>

- ① Dスコアの高い跳躍技の実施
- ② 跳躍全体にスピード感があり、高さや距離を伴うダイナミックな実施
- ③ 着地の先取りができた高い体勢での安定した着地

【採点上の留意点】

- － 各局面において著しい技術不良が見られる跳躍については、各減点項目を有効に活用し厳密に減点をする。第1空中局面、支持局面にも注視し、第10章跳馬「種目特有な実施減点」を有効に活用し減点をする。
- － ダイナミックさに欠ける跳躍については、跳躍の大きさだけでなく、技の難易度から受ける迫力や雄大性などを加味し、第10章跳馬「種目特有な実施減点」の「ダイナミックさに欠ける」の減点項目に則り、明確に差をつける。
- － 着地の先取りができず、高い体勢での安定した着地ができない跳躍については、第2空中局面の「種目特有な実施減点」、第9章「(着地)姿勢の欠点」の減点項目を有効に活用し、明確に差をつける。

<段違い平行棒>

- ① 腕の曲がり、膝・つま先の緩みがない美しく伸びた体線での正確な技の実施
 - ② 車輪系の技や支持回転系の技、空中局面を伴う技の振幅が大きいダイナミックな実施
 - ③ 多様な空中局面を伴う技を組み合わせ、高いDスコアを獲得できる演技構成*
- *ただし、①②を満たせていない実施に対しては厳密に減点をする。

【採点上の留意点】

- － 上記の指針内容に沿わない姿勢欠点がある実施に対しては、第9章「一般欠点と減点表」、第11章段違い平行棒「種目特有な実施減点」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- － け上がり、後ろ振り上げ倒立や支持回転系の技などの基本技の姿勢においては特に注視し、膝やつま先の緩みが見られる実施や、身体の姿勢が悪い実施に対しては、第9章「一般欠点と減点表」、第11章段違い平行棒「種目特有な実施減点」の「倒立、または振り上げ倒立の身体の姿勢が悪い」の減点項目に則り減点をし、明確に差をつける。
- － 各技の振幅が小さい実施に対しては、第9章「一般欠点と減点表」の「技の高さ(大きさ)が不十分」の減点項目を有効に活用し減点をする。

<平均台>

- ① 立ち姿勢や歩く姿勢も含め、常に身体の細部までコントロールされた美しい姿勢での演技
 - ② ー正確で安定したアクロバット系の技の実施
ージャンプ・リープ・ホップに高さや身体のハリがあり、すべてのダンス系の技において姿勢欠点がない正確な実施
 - ③ 身体を最大限に使い、リズムとテンポの変化に富んだ流れのある芸術的な演技
 - ④ 高いDスコアを獲得できる演技構成*
- *ただし、①②を満たせていない実施に対しては厳密に減点をする。

【採点上の留意点】

- － 演技全体を通して身体の姿勢が悪い、膝・つま先が緩む実施に対しては、第12章平均台「芸術性と構成の減点」の「身体の姿勢が悪い」「美しさに欠ける足さばき」の減点項目に則り、厳密に減点をする。

- 演技全体を通して身体を最大限に使えていない、リズムとテンポの変化が不十分で技と動きの流動性に欠ける演技には、第12章平均台「芸術性と構成の減点」の「動きの大きさが不十分」「リズムとテンポ」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- アクロバット系の技において、姿勢欠点がある実施や正確さに欠ける実施に対しては、第9章「一般欠点と減点表」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- ジャンプ・リープ・ホップは特に注視し、高さが不十分な実施や姿勢欠点がある実施、正確さに欠ける実施に対しては、「技の高さが不十分(0.10/0.30)」「身体の姿勢の減点(0.10/0.30/0.50)」「正確さ(0.10)」の減点項目に則り、厳密に減点をする。

<ゆか>

- ① 立ち姿勢や歩く姿勢も含め、常に身体の詳細までコントロールされた美しい姿勢での演技
 - ② - アクロバット系の技の高さがあり、着地姿勢までコントロールされた正確な実施
- ジャンプ・リープ・ホップに高さや身体ハリがあり、すべてのダンス系の技においてコントロールされた正確な実施
 - ③ 身体を最大限に使い、表情を含め表現力豊かで芸術的な演技
 - ④ 高いDスコアを獲得できる演技構成*
- *ただし、①②を満たせていない実施に対しては厳密に減点をする。

【採点上の留意点】

- 演技全体を通して身体の姿勢が悪い、つま先が伸びない、足が内向き、べた足での演技に対しては、第13章ゆか「芸術性と構成の減点」の「身体の姿勢が悪い」、「美しさに欠ける足さばき」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- アクロバット系の技において姿勢欠点がある実施、高さが不十分な実施に対しては、第9章「一般欠点と減点表」の減点項目を有効に活用し、減点をする。
- ダンス系の技は特に注視し、高さが不十分な実施や姿勢欠点がある実施、正確さに欠ける実施に対しては、「技の高さが不十分(0.10/0.30)」「身体の姿勢の減点(0.10/0.30/0.50)」「正確さ(0.10)」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- 演技全体を通して身体を最大限に使えていない、音楽のテーマに合った表情や表現力に欠ける演技に対しては、第13章ゆか「芸術性と構成の減点」の「動きの大きさが不十分」「音楽のスタイルと一致した表現力の欠如」「部分的または全体的に音楽と演技の関連性に欠ける」の減点項目に則り、厳密に減点をする。

◆15歳以下の選手強化に向けた指針◆

15歳以下の選手を対象とする競技会においては、次世代の選手育成を強化するために他の競技会の指針からさらに基礎基本を重要視した指針を以下のように示します。

対象競技会：全日本ジュニア選手権大会東西決勝大会 Aクラス Bクラス Cクラス
全国中学校体育大会
全国ブロック選抜U-12体操競技選手権大会
全国体操小学生大会
その他、この年齢層を対象とした各地での大会(クラブ対抗など)

※全日本ジュニア選手権大会選手権1部については、全日本選手権の予選となる大会のため、その他すべての国内競技会の分類とする

<全体として>

- ① 身体の細部まで常に意識された美しい姿勢
- ② 技術欠点、姿勢欠点のない正確な基本技

<跳馬>

- ① 助走から着手までのスピードと鋭い突き上がりのあるダイナミックな跳躍
- ② 第1空中局面、支持局面に欠点がない正確な実施
- ③ 着地の先取りができる跳躍

<段違い平行棒>

- ① 腕の曲がり、膝・つま先の緩みがない美しく伸びた体線での正確な技の実施
- ② け上がり、後ろ振り上げ倒立や支持回転系の技において、姿勢欠点がない正確な技の実施
- ③ 振幅の大きな車輪系の技、支持回転系の技、終末技の実施

<平均台>

- ① ー美しい脚のラインと重心が高い立ち姿勢
ー高いトウ立ちとつま先まで意識された美しい足の動き
- ② ー姿勢欠点がない正確なアクロバット系の技の実施
ージャンプ・リープ・ホップに高さや身体のハリがあり、すべてのダンス系の技において姿勢欠点がない正確な実施
- ③ 身体を最大限に使い、演技全体に流れのある芸術的な演技

<ゆか>

- ① 立ち姿勢や歩く姿勢も含め、常に身体の細部までコントロールされた美しい姿勢での演技
- ② ーアクロバット系の技の高さがあり、着地姿勢までコントロールされた正確な実施
ージャンプ・リープ・ホップに高さや身体のハリがあり、すべてのダンス系の技においてコントロールされた正確な実施
- ③ 身体を最大限に使い、表情を含め表現力豊かで芸術的な演技

【跳躍や演技を試みなかった場合の国内対応】

国内競技会においては、従来通り、グリーンライトの点灯または D1 審判員からの演技開始の合図の後、選手が D 審判員に挨拶をし、跳躍板や器具に触れてから再び挨拶することで 0.00 点として扱うこととする。(すべての種目)

【落下による中断時間中に止血が必要であると判断された場合の国内対応】

国内競技会においては、選手が器械から落下した際、演技続行の意志はあるが、止血が必要な状態であると医師または審判長が判断した場合、落下による中断時間(UB30 秒、BB10 秒)を超えて演技を中断しても減点なしで演技を再開することを認める。落下による中断時間(UB30 秒、BB10 秒)は、止血後から計時を始める。ただし、演技続行できないような怪我と医師が判断した場合は、この限りではない。(状態によっては演技続行不可と判断されることもある)

付録

【タイブレークの基準について】

*この規則は、FIG 競技規則によるオリンピック、世界選手権等 FIG 主催の競技会に向けた規則です。国内の競技会においては、各競技会の主催団体によって、この規則を準用または参考にし設定をしてください。

競技規則 FIG Technical Regulations 2025(抜粋)

第2章 体操競技に関する特別規定

第7条 タイブレーク ルール

第7条 7.1 予選

すべての決勝への出場資格:

同点の場合、どの順位においても、以下の通りの基準で順位を決定させる:

第7条 7.1.1 団体総合決勝のための予選

団体総合決勝の出場資格を獲得するためのポイントが同点の場合は、以下の基準を尊重して順位が決定される:

獲得した各種目のチーム得点の合計が最も高いチームが上位となる(つまり、男子は最も高い5種目のチーム得点の合計、必要に応じて4種目、3種目、2種目、1種目の得点の合計、女子は最も高い3種目のチーム得点の合計、必要に応じて2種目、1種目の得点を合計することによる)

さらに同点の場合は、どちらのチームも同じ順位とする。同点のチーム間で抽選を行い、団体総合決勝のスタート順を決定する。

第7条 7.1.2 個人総合決勝のための予選

個人総合決勝の出場資格を獲得するためのポイントが同点の場合は、以下の基準を尊重して順位が決定される:

1. 獲得した各種目の最終スコアの合計が最も高い選手が上位となる(つまり、男子は最も高い5種目の最終スコア、必要に応じて4種目、3種目、2種目、1種目の得点を、女子は最も高い3種目の最終スコア、必要に応じて2種目、1種目の得点を合計することによる)
2. さらに同点の場合は、すべての種目のEスコアの合計が高い選手が上位となる
3. さらに同点の場合は、すべての種目のDスコアの合計が高い選手が上位となる

さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。同点の選手間で抽選を行い、個人総合決勝のスタート順を決定する。

第7条 7.1.3 種目別決勝のための予選

跳馬を除くすべての種目において種目別決勝の出場資格を獲得するためのポイントが同点の場合は、以下の基準を尊重して順位が決定される：

1. Eスコアが最も高い選手が上位となる
2. Dスコアが最も高い選手が上位となる

さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。同点の選手間で抽選を行い、種目別決勝のスタート順を決定する。

跳馬における種目別決勝の出場資格を獲得するためのポイントが同点の場合は、以下の基準を尊重して順位が決定される：

1. 最終スコアを平均する前の2回の跳躍のスコアのうち、最も高いスコアをもつ選手が上位となる
2. 2回の跳躍のうち、どちらか一方のEスコアが高い選手が上位となる
3. 2回の跳躍のうち、どちらか一方のDスコアが高い選手が上位となる

さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。同点の選手間で抽選を行い、種目別決勝のスタート順を決定する。

第7条 7.2 決勝

第7条 7.2.1 団体総合決勝

団体総合決勝においてポイントが同点の場合は、以下の基準を尊重して順位が決定される：

- 獲得した各種目のチーム得点の合計が最も高いチームが上位となる（つまり、男子は最も高い5種目のチーム得点の合計、必要に応じて4種目、3種目、2種目、1種目の得点の合計、女子は最も高い3種目のチーム得点の合計、必要に応じて2種目、1種目の得点を合計することによる）
- さらに同点の場合は、どちらのチームも同じ順位とする。

第7条 7.2.2 個人総合決勝

個人総合決勝においてポイントが同点の場合は、以下の基準を尊重して順位が決定される：

1. 獲得した各種目の最終スコアの合計が最も高い選手が上位となる（つまり、男子は最も高い5種目の最終スコア、必要に応じて4種目、3種目、2種目、1種目の得点を、女子は最も高い3種目の最終スコア、必要に応じて2種目、1種目の得点を合計することによる）
 2. さらに同点の場合は、すべての種目のEスコアの合計が高い選手が上位となる
 3. さらに同点の場合は、すべての種目のDスコアの合計が高い選手が上位となる
- さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

第7条 7.2.3 種目別決勝

跳馬を除くすべての種目においてポイントが同点の場合は、以下の基準を尊重して順位が決定される：

1. Eスコアが最も高い選手が上位となる
2. Dスコアが最も高い選手が上位となる

さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

跳馬においてポイントが同点の場合は、以下の基準を尊重して順位が決定される：

1. 最終スコアを平均する前の2回の跳躍のスコアのうち、最も高いスコアをもつ選手が上位となる
2. 2回の跳躍のうち、どちらか一方のEスコアが高い選手が上位となる
3. 2回の跳躍のうち、どちらか一方のDスコアが高い選手が上位となる

さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

【マークについて】

採点規則 2.3.2 競技の服装

f) 現行の FIG 広告規定に従い、自国のマークまたはエンブレムをレオタード／ユニタードにつけなければならない。

2025 FIG 広告規定および競技服装（抜粋）

第5章 国のマーク

- すべての競技者は自国(国内では所属)を証明するマークを表示しなければならない。
このマークは、以下のものでなければならない：
 - 国旗または国名
 - フルネームもしくは国名を略した3文字の連盟コード(FIG 制定)でもよい
*国内では所属のマークまたは所属名(略称も可)
 - 全体の面積は最低 30 cm²とする
 - マークの表示の場所は任意である。
 - 自国のマークはそれぞれの選手に少なくとも1つは表示されなければならない。
 - チームの場合、メンバー全員のマークは同じでなければならない。

✓ 器械器具の規定について

一段違い平行棒 スポッターマット(補助用ソフトマット)*の使用

* FIG Apparatus Norms の規定 = 200cm × 150cm × 15cm

サブ会場練習、本会場練習(ローションアップ)に加えて、競技直前のタッチウォームアップ時にもスポッターマット(補助用ソフトマット)を使用することを認める。2024年7月からすべての大会で適用する。

✓ 器械器具の規定について

一段違い平行棒 テンション(張力)コントロールセンサー(TCS)について

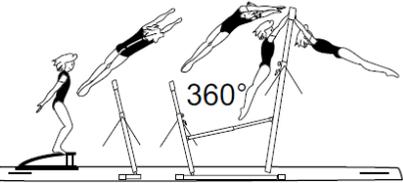
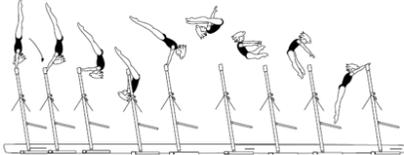
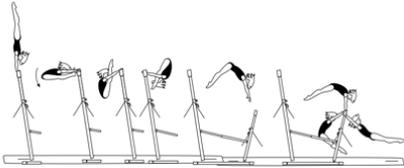
2025年以降、オリンピック、ユースオリンピック、世界選手権(シニアおよびジュニア)、ワールドカップ、ワールドチャレンジカップでは、張力コントロールセンサー(TCS)の使用が義務付けられる。その他の競技会についてもTCSの使用を強く推奨する。ワイヤーの張力が5000Nより大きかった場合、または1000Nより小さかった場合は、TCSに警告ランプが点灯する。(Apparatus Norms 77ページ参照)
選手が、この範囲を超える状態で競技を実施することは危険であると考えられるため、FIG 器械器具委員会はこの範囲内で競技することを強く推奨する。2025年の世界選手権以降は、これを違反した場合、警告後に減点が適用される可能性がある。

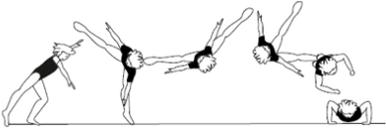


→国内対応

国内競技会では張力コントロールセンサー(TCS)の普及が十分でないため、設置は日本体操協会主催の主要競技会(全日本個人総合選手権、NHK杯、全日本種目別選手権、全日本団体選手権)に限る。張力の制限については国際体操連盟の対応が定まらないため、今年度の国内競技会では制限を設けないこととする。

【2024年新技】2024年1月から8月までに発表された新技 →採点規則 2025年版に掲載予定

UB	Marija PETROVA (LAT)	# 1.406 低棒支持なし閉脚伸身とび越し1回ひねり～高棒懸垂 https://www.youtube.com/watch?v=svRzSbdP-jg			D	
UB	Thelma ADALSTEINSDOTTIR (ISL)	# 2.504 前方浮支持回転～後ろ振り上げ前方開脚宙返り～高棒懸垂 https://www.youtube.com/watch?v=PIP0DQCCLQY			E	
UB	Kate SAYER (AUS)	# 4.308 高棒、後方閉脚浮腰回転前とび出し～下移動低棒浮支持 https://www.youtube.com/watch?v=wf4dwCJkyTk			C	

FX	Reese ESPONDA (USA)	# 1.203 後方バタフライ(胴体は床に対して平行、わずかなア ーチ姿勢、空中で両足が腰の高さ、またはわずかに 下で開脚)から正面支持臥 https://www.youtube.com/watch?v=vFpYuuIfNbM			B	
FX	Hillary HERON (PAN)	# 5.602 後方かかえ込み2回宙返り11/2ひねり https://www.youtube.com/watch?v=XImiueceTTI			F	